

私のちよつとひと息は「原点回帰」です。その気づきを紹介したいと思います。今からさかのぼること3年前、以前からおつき合いのあった企業の方から“QCサークル活動を開始したいが、実際にどのように進めたらよいか悩んでいるのでアドバイスがほしい”と相談が。その企業は福井県に本社を置く「フクムラ仮設株式会社」です。

実際に現地へ赴き、まずは現状把握。すると、個人個人のスキルはものすごく高いが、その内容がみんなで共有できていないこと、そしてその改善をアピールできていないことがわかりました。現地調査でQC的ものの考え方を使ったら、もっと改善のスピードは上がると確信しました。そこでQCサークル活動をやるのではなく、現場が何を改善したのか、現場で起きていることをしっかりと形に残し、改善に結びつけ、現場の方に「今までここがやりにくいからここを直した」など、自身でよくした事例をどんどんあげてもらいました。

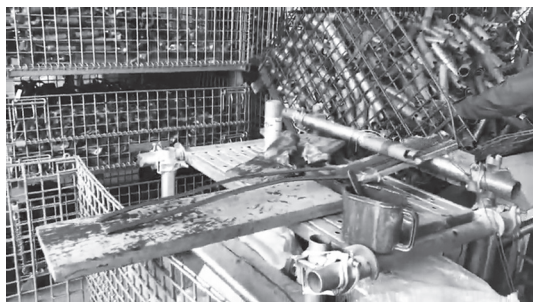


整備作業

足場施工

そこからQC手法を使った改善活動のPDCAが回り始めました。今では、自作でからくり改善*もお手の物！身近な改善から全社横断的な改善まで「QC手法を使った改

善」が当たり前になりつつあります。そして何より会社内の雰囲気が大きく変わり、まず何かをする時はQC的ものの見方・考え方を取り入れて業務をする仕組みができるようになったとのことです。



足場の色づけ工程のからくり改善。手作業で行っていた足場部材へのマーキング作業を手作りのからくりを作成し、自動でマーキングするように

ここで、自身のQCサークル活動が「QCサークル活動をやること」に必死になり、「改善をやること」ができていなかったことに気づかされました。どれだけコストダウンできたか？どれだけサイクルを回し、成果を上げたか？

「大きな成果」＝「QCサークル活動の達成感」という勘違いでした。もちろん、これらによる達成感も素晴らしいですが、きっと、QCサークル活動にかかわっている方でしたら一度は通る壁（QCサークル活動で何をするのかの悩み）と思います。

「大きなプロジェクトを達成するための活動だけでなく、身近で起きている問題や課題を現地・現物でしっかりと吸い上げ、改善する」。そんな基本に戻ってみませんか？これが私の原点回帰です。

*からくり改善：メカニズムは単純シンプル、お金をかけない、ムリ・ムダ・ムラを退治した改善のこと